



ともしび

— TO MO SI BI — 第263号

2018(平成30)年3月号

諸行無常

ここ最近ようやく暖かくなり、少しずつ春めいてきました。しかし、今年の冬は厳しい寒さでした。我が家の灯油の減り方も例年になく早く、何度かガソリンスタンドへ灯油を買いに行きました。もう少しでその作業からも解放されそうです。

春の訪れは、花粉の訪れとも言えます。花粉症に悩まされる方は、これらの季節は大変ですね。私もその一人ですが、早めに耳鼻科で薬をもらっているのです、何とかなりそうです。

さて、春はお彼岸の季節です。毎年このことですが、やはり春秋のお彼岸には先立っていかれた方を偲び、お墓へお参りに行かれる方も多いでしょう。彼岸とは、お浄土を表します。私たちの住む娑婆世界を此岸（しがん）と言います、此岸から阿弥陀さまのお浄土（彼岸）を尋ねていくこと、つまり浄土真宗の門徒にとっては、お念仏のいわれを聞かせていただくということが何より大切なことです。

皆さまは、どんなご縁から手を合わせお念仏するようになったのでしょうか？大切な方を亡くされた時、人生に行き詰まりや虚しさを感じた時など様々でしょう。

お釈迦さまが説かれた教えの一つに「諸行無常（しよぎょうむじょう）」があります。この言葉は、この世に存在するすべては、姿も本質も常に流動変化するもので一定のものはないという意味です。これは、仏教の根本的な特徴である三法印の一つで、あと二つは「諸法無我（しよぼうむが）」と「涅槃寂靜（ねはんじやくじょう）」で、仏教における真理を表します。また、この三法印に「一切皆苦（いっさいかいく）」を合わせて四法印とも言われます。

『平家物語』の冒頭にある、「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり、沙羅双樹の花の色、盛者必衰の理をあらわす」という有名な文章を聞かれた方も多いでしょうから、馴染みのある言葉だと思えます。また、「いろはにほへとちりぬるを」のいろは歌は、四法印のことを詠んだ偈だそうです。

久しぶりに会った方に対して、「いつまでも変わらないですね。」などとお世辞を言っている、心の中では「この人もすっかり年を取ってしまったな。」と思うようなことはありませんか。おそらく、私たち自身も相手に同じように思われていることでしょう。

親鸞聖人は、『歎異抄』というお書物の中で、「火宅無常の世界は、よろづのこと、みなもつてそらごとたわごと、まことあることなきに、ただ念仏のみぞまことにておはします。」と仰せになりました。

無常の世を生きているのに、そのことに気づこうとせず、世間に流され、自分自身を見失っている私たちの姿があります。「ただ念仏のみぞまこと」と仰せになった親鸞聖人の姿勢を通じて、我が身を振り返り、阿弥陀さまのお慈悲に感謝しお念仏を申していきたいものです。この春のお彼岸に、今一度仏法を聞かせていただくご縁の場として、どうぞお寺へもお参りください。

仏事あれこれ

仏事のQ&A

Q. お仏壇をお迎えしたら？

A. 入仏法要をする

我が家にお仏壇を迎えて、置く場所も決まって、さて次に何をするか？

当然のことながら、ご本尊と両お脇掛けをお仏壇に奉懸するのです。浄土真宗では、新しいお仏壇にご本尊をお迎えする時の法要を「入仏（にゆうぶつ）法要」と言います。「入仏」と言っても、お勤めする僧侶が、仏さまの「魂」入れるわけではありません。仏さまの方から、欲や迷いに翻弄される私たちを救おうと現れてくださるので。私たちのために、私たちが用意したお仏壇に入ってくださいと思えばよいでしょう。入仏法要とは、仏さまをお迎えしたことを喜び、仏さまの徳を讃える法要だということです。「お魂入れ」や「お性根入れ」とは言いません。「入仏法要」もしくは「入仏式」と言ってください。また、「お紐解き」という言い方もあります。

これは、本山からお迎えしたご本尊のお軸の紐を解いて、お仏壇にお掛けるところからきています。

一方、ご本尊がすでにあつて、古いお仏壇から新しいお仏壇にお移しするときや、引越してお仏壇を移動させるときなどは、「お魂ぬき」とか「お性根ぬき」とは言わず、「遷仏法要」と言います。お移りいただくのですから「お移徒（わたまし）」とも呼ばれています。

いずれにしても、手次ぎのお寺に頼み、ご本尊の奉懸や法要をお願いしてください。

新しいお仏壇を安置した初めが肝心です。「お仏壇に仏さまの魂を入れよう」としかねない私たちです。だからこそ、ご本尊をお迎えすることの意味を十分に理解し、仏さまにお入り願うのは、仏さまの真実のお心をわが家で味わうためだったと、肝に銘じていただきたいのです。

『新・仏事のイロハ』より抜粋

書籍紹介

『13歳からの仏教』

一番わかりやすい浄土真宗入門



かわいいイラスト満載でお届けする新しい仏教の入門書！

本書では、お釈迦さまの生い立ちや親鸞聖人の生き方を、カラーイラストとともにわかりやすく紹介。仏教とは何か、お釈迦さまの教えとは何か、13歳から大人まで、すべての悩める日本人にとって役立つヒントが詰まった一冊。

※お求めは本願寺出版社へ

0120-464-583

定価 1,296円（税込）

2月行事の様子

★常例法座 2月18日(日) 13時～15時

風が冷たく、寒い日でしたが快晴のなか、常例法座を開催いたしました。
正信偈（草譜）をお勤めした後、ご講師・高山和明師よりご法話をいただき、
14名の皆さまがお参りされました。

冬晴れの本堂



勤行「正信偈」



高山和明師



2月の誕生日の皆さま



ご講師の高山先生は、約3年ぶりのご縁となりました。現在布教所において、精力的に活動されています。
今回は、親鸞聖人のご和讃「生死の苦海」をご讃題にして、無常観について優しい口調でお話いただき、参拝者の皆さまと有り難くお聴聞させていただきました。

平成30年 年回表

1周忌	平成29年
3回忌	平成28年
7回忌	平成24年
13回忌	平成18年
17回忌	平成14年
23回忌	平成8年
25回忌	平成6年
27回忌	平成4年
33回忌	昭和61年
50回忌	昭和44年

平成30年の年回表 (ご法要のお申し込みをお忘れなく)

年会費3千円（一家族あたり）

また、築地本願寺や京都への参拝など一緒にませんか。お寺にご縁のある方、興味のある方、どなたでも結構です。是非ご入会ください。

当会館では、会員を随時募集しております。当会は平成7年に発会して以来、法要・法座への参拝や清掃などのお手伝いをはじめ、研修旅行・親睦会など幅広く活動しております。

「奉讃会」入会のご案内

お知らせ

東久留米会館の 行事案内

—Schedule—

▶ 3月の行事予定

東日本大震災追悼法要

3月11日(日) 午後2時46分～

今年で震災より7年となります。
震災によって亡くなられた方々の追悼
法要をお勤めいたします。

親鸞聖人御命日お晨朝総参拝

3月16日(金) 午前7時～

月に1度、朝のお勤めにお参りしませんか？
お供物のおさがりをプレゼントいたします。

春季彼岸会

3月21日(水) 午後1時～

ご講師 北村 信也師

(東京都 称讚寺)

心に彼岸(お浄土)を思い、
お聴聞いたしましょう。

お参りの皆さま全員にお供物のおはぎを
差し上げます。



▶ 4月の行事予定

はなまつい

**4月15日(日) 午前10時～
午後1時～**

お釈迦さまのお誕生日をお祝いする行事です。
午前の部はお子さま対象、午後の部は大人対象
となります。
どうぞ、ご家族お揃いでお参りください。

東久留米会館会報 「ともしび」
第263号
発行日 2018年3月1日
発行者 安邊 泰教
住所 東京都東久留米市柳窪5-8-30
電話 042-474-6787

編集後記

今年はいんフルエンザの感染者が
過去最高(最悪)だったそうです。
例外に漏れず、我が家4人全員がい
んフルエンザになりました。これか
らの季節は、ノロウイルスでしょう
か。皆さまもお気を付けてください。
(安)

お晨朝お休みのお知らせ

3月12日(月)・13日(火)
2日間お休みさせていただきます。

今月のお仏飯米のご進納

北川 康雄 様
熊谷 武 様

ありがとうございました。